



シンガポール

NCB 海外レポート

スマート・シティ「シンガポール」の都市風景 ①

～シンガポールの公営住宅 HDB～



- ① 高価格で取引されている高層 HDB（50 階建）
- ② 地区年数の経過した HDB。公営住宅らしさが伺えます
- ③④ 各施設への入館者に対して専用アプリでの QR 読み込みが義務付けられている新型コロナウイルスの追跡システム

◇ HDB とは

- ・ 住居は大きく HDB（公営住宅）と戸建て、コンドミニアムに分類され、国民の大半は HDB（Housing Development Board）に居住しています。
- ・ HDB は国民へ 99 年間の使用権が販売される点が特徴で、外国人は購入することが出来ません。（ごく一部において賃貸形式もあります）
- ・ 間取りはワンルーム～4LDK まであり、家族構成や世帯所得に応じて選ぶことが可能です。新築の売り出し価格は物件により変動があるものの、3LDK（100 m²程度）で S\$60 万（4,800 万円）程度となっています。
- ・ また、HDB では民族融和政策に基づいた入居者民族比率の調整が行われており、多民族国家ならではの光景が伺えます。

◇ ここがすごい！

- ・ HDB は売買が可能であり、新築時よりも高値で取引されるケースが大半です。人気の高い物件だと、S\$150 万（約 1.2 億円）程度で売買されています。
- ・ 最近では空調や電気設備などをスマホの専用アプリで操作できるものや、建物全体が省エネ仕様になっているスマートホーム仕様の HDB が出てきています。
- ・ また、シンガポールでは新型コロナウイルス感染者の行動追跡のため、各施設への入館時に専用アプリでの QR コード読み取りが義務付けられていますが、HDB をはじめとする住宅入口にも QR コードが備え付けられています。

2021 年 5 月 17 日作成

西日本シティ銀行シンガポール駐在員事務所